

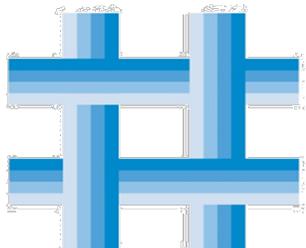


# 第1回神奈川県ともいきアドバイザー会議

(旧 みんなあつまれ実行委員会)

令和5年9月7日

福祉子どもみらい局 共生推進本部室



ともに生きる社会  
かながわ憲章

KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society

Kanagawa Prefectural Government

ともに生きる 翔子

(1)「みんなあつまれ実行委員会」から  
「神奈川県ともいきアドバイザー」への改組について

# これまでの取組み ～障がいに対する理解促進～

## 憲章の普及啓発

- ・ポスター掲示、チラシ配布等
- ・県のたより、市町村広報誌、タウンニュースへの掲載、パネル展の実施等
- ・企業・団体等との連携によるコラボグッズの製作、販売等

## 子ども・若年層への憲章の理念の浸透

- ・小学校における人型ロボット「Pepper」を活用した道徳授業の実施〈年20校程度〉
- ・県内全学校における「いのちの授業」の実施。授業を受けて感動したことを作文として募集、表彰（「いのちの授業大賞」）
- ・大学生への出前講座

## 障がいを自分事化し考える機会の創出

- ・**「みんなあつまれ」の開催（障がいの状態や程度にかかわらず、同じ体験を共有し、ともに楽しむイベント）**
- ・大学生による「憲章の理念を広める仲間づくり」の企画・展開（車椅子での街あるき体験等）

## 憲章の理念の具現化に向けた取組

- ・ともいきアートサポート事業（障がいの程度等にかかわらず、誰でも文化芸術を鑑賞、創作、発表できる機会の創出等）
- ・農福連携マッチング等支援事業（障がい者の日中活動の場の充実、就労機会の確保）〈モデル事業〉

「ともに生きる社会かながわ」の実現に向け、今後は憲章の「周知」から「（憲章の）理念の具現化」に力を入れていく

障がい者と接する機会、障がい者の社会参画の機会を創出していく（点から面へ）



# 「みんなあつまれ」 これまでの経過

年度	回数	内容	成果と課題
2017 (H29)	1回	赤レンガ倉庫でのステージイベント等 	<b>【成果】</b> 音楽やアート、パラスポーツを通じて多くの人々に楽しみながら憲章の理念を知る機会を提供できた [来場者数:11万3千人]*ラーメンフェスタと同時開催  <b>【課題】</b> 多くの一般客はイベント会場(非日常)から日常生活に戻ると忘れてしまう (県民ニーズ調査「憲章を知った広報の方法」のうち、『イベント』は2%程度)
2018 (H30)	4回	地域のお祭りや学園祭などに出向き、アートのワークショップやパラスポーツ体験	<b>【成果】</b> 継続的に行われている複数の地域イベントを活用することで、憲章の理念普及の機会が広がった (経費削減効果もあり)
2019 (R1)	6回		<b>【課題】</b> 集客力のあるイベントの選別が必要
2020-2021 (R2-3)			<コロナ禍のため、中止>



# 「みんなあつまれ」これまでの経過

年度	回数	内容	成果と課題
2022 (R4)	13回	地域のお祭りや『ねんりんピック』のほか スポーツイベント等で憲章チラシ 配布や憲章の認知度アンケート 	<b>【成果】</b> 特に年度後半より、地域イベントが復活し、徐々に活動を再開することができた  <b>【課題】</b> イベント自粛や3密回避のため、ワークショップなど <u>憲章の理念を体験できる場の提供は、ほぼできなかった</u>



**令和5年度** 障がい者と接する機会、障がい者の社会参画の機会を創出していく(点から面へ)

「憲章」や「当事者目線条例」を広めるための  
**地域イベントへの参加機会の増**

**13回 → 16回以上**

# 「神奈川県ともいきアドバイザー」について

障がい者自身として考える機会を創るためのイベント「みんなあつまれ」を実施するために設置した実行委員会を、「当事者目線の障害福祉推進条例 ～ともに生きる社会を目指して～」の制定を踏まえ、発展的に改組しました

イベント実施を前提とした、  
「みんなあつまれ実行委員会」から



当事者委員を加え、イベントだけではなく、「ともに生きる社会かながわ」の推進に関する  
県の取組についてご意見・ご協力をいただき、  
「神奈川県ともいきアドバイザー」へ！

# 「神奈川県ともいきアドバイザー」メンバー

## 改組前:「みんなあつまれ実行委員会」

氏名	所属団体
1 篠原 正治 【実行委員長】	神奈川県社会福祉協議会会長
2 首藤 健治 【副実行委員長】	神奈川県副知事
3 西村 明夫	神奈川県商工会議所連合会専務理事
4 伊東 祐治	神奈川県商工会連合会専務理事
5 萩原 美由紀	NPO法人 アール・ド・ヴィーヴル理事長
6 鈴木 暢	NPO法人 神奈川セルプセンター代表
7 内藤 則義	神奈川県身体障害者連合会会長

## 改組後:「神奈川県ともいきアドバイザー」

氏名	所属団体
1 篠原 正治 【代表】	神奈川県社会福祉協議会会長
2 首藤 健治 【副代表】	神奈川県副知事
3 井村 浩章 ※専務理事交代に伴う	神奈川県商工会議所連合会専務理事
4 宮越 雄司 ※専務理事交代に伴う	神奈川県商工会連合会専務理事
5 萩原 美由紀	NPO法人 アール・ド・ヴィーヴル理事長
6 鈴木 暢	NPO法人 神奈川セルプセンター代表
7 内藤 則義	神奈川県身体障害者連合会会長
8 高野 元	神奈川県共生社会アドバイザー
9 手塚 明美	NPO法人藤沢市民活動推進機構理事長など



# 新メンバーについて

## 障がい当事者



高野 元氏

- 創発計画株式会社 代表
- 日本ALS協会神奈川県支部副支部長
- 川崎つながろ会 会長
- 神奈川県 共生社会アドバイザー

### 【県との関わり】

- ・神奈川県 共生社会アドバイザー
- ・ともいきメタバース研究会 委員
- ・大学への出前講座
- ・当事者目線の障がい福祉推進条例 わかりやすい版の作成協力など

## 地域づくり・ボランティア・農福連携

実践者



手塚 明美氏

- 一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ代表理事
- 特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構代表 (加盟団体:500)
- 逗子文化プラザ市民交流センターセンター長

### 【県との関わり】

- ・県生涯学習指導者研修「社会教育担当者コース」講師 (ボランティア活動の現状とこれからの意義について)(R2)
- ・県ボランティア活動相談 受託
- ・県農福連携マッチング等支援事業 受託(R2~)
- ・県水福連携推進事業 受託(R5~)

# 委員の皆様への役割、活動イメージ

## 【役割】

各委員におかれましては、専門的知識・経験等から、「ともに生きる社会かながわ」の実現に向けて県が実施する各種施策に対し、ご意見・ご協力をお願いします

## 【活動】(年2回程度の会議を予定)

第1回(8月～9月頃) 県から前年度～今年度の取組み状況について報告  
➡次年度の取組みの方向性についてコメントをいただきたい

第2回(3月頃) 県から今年度事業の実施結果と次年度の方向性(予算含む)について報告  
➡今年度事業の評価等についてコメントをいただきたい

## (2)ともに生きる社会かながわの実現に向けた 県の取組について

# ともに生きる社会かながわ憲章

- 一 私たちは、あたたかい心をもって、すべてのひとのいのちを大切にします
- 一 私たちは、誰もがそのひとらしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 一 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 一 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成28年10月14日 神奈川県

# ともに生きる社会の実現に向けて

## これまでの 取組み

- 憲章の普及啓発を含む、憲章の「周知」や「理念の普及」のため、紙媒体を中心とした広報を展開することで、憲章の認知度向上に努めてきた

## 成果・現状

- 令和4年の認知度は、30.2%
- 前年度(26.8%)から3.4ポイント向上したものの、県のグランドデザインで定めた目標値(50%)には達していない

## 課題等

- 憲章制定の発端となった津久井やまゆり園事件から7年が経過し、風化が進む中での、憲章認知度の向上に向けた普及啓発のあり方
- ともに生きる社会かながわの実現に向けて、憲章の認知度向上のみならず憲章の理念が様々な場面で実感できるような取組も必要

## 今後の 方向性

- 障がい者の社会参加機会を増やす取組みや障がい者と一緒に活動する「共生の場の創出」などにより、憲章の理念の「具現化」を目指す

# 憲章の普及啓発

(1)金澤翔子さんを「ともに生きる社会かながわ応援大使～ともいき大使～」に任命

幅広い世代の方々への共感をより一層広めていくため、新たに「ともに生きる社会かながわ応援大使～ともいき大使～」を新設し、金澤さんを任命しました



令和5年7月13日任命式  
Kanagawa Prefectural Government

ともに生きる 翔子

金澤さんが揮毫した「ともに生きる社会かながわ憲章」の題字

写真①

写真②

8月23日に実施した横浜そごうでの、大使による「憲章」PRイベント

# 憲章の普及啓発

## (2) 民間企業との連携

### 横浜高島屋

- ・横浜高島屋にて、推進週間のうち4日間(7月24日(月)、25日(火)、29日(土)、30日(日))、憲章Tシャツを着用し来店客をお出迎え。
- ・憲章ポスターを店内掲示、従業員向け研修で、憲章PR



### ㈱ありあけ

横浜銘菓「ありあけのハーバー」のパッケージに、憲章の題字・憲章本文・金澤翔子氏の写真をデザインしたものを使用し、憲章のPRを図る。



# 憲章の普及啓発

## (3) ともいきボランティア結成

スポーツやお祭り、ビーチクリーン等でのイベントで「ともに生きる社会かながわ憲章」のPR活動を行うボランティアを今年6月に結成しました。定員100名の募集に対して、定員を超える申込みがあり、現在の登録者数113名です。活動に先立ち、ボランティアとしての心構えや障がいの理解に関する研修受講も実施しています。



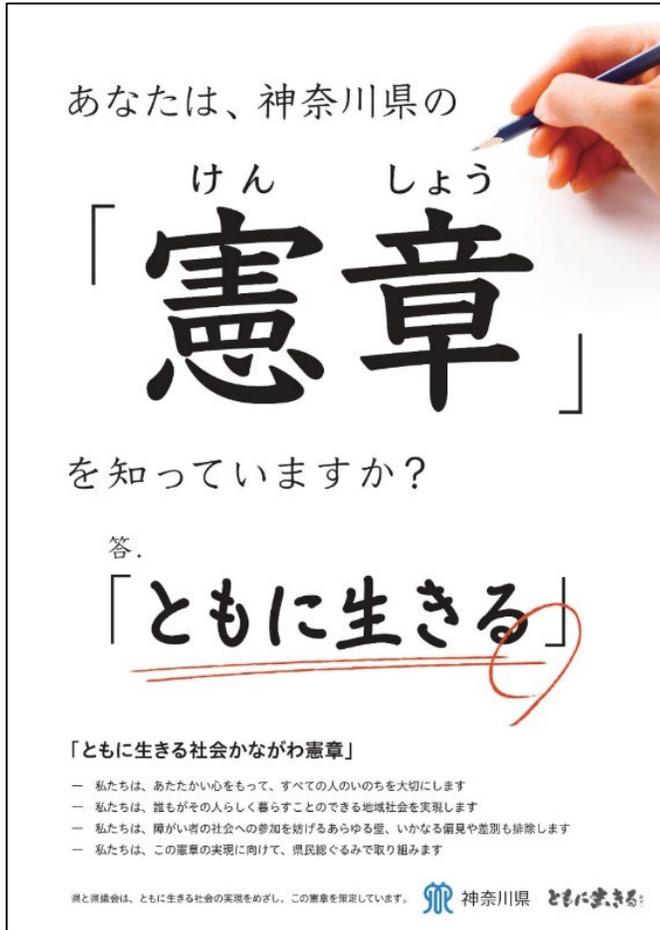
事前研修の様子



憲章PR活動の様子

# 憲章の普及啓発

## (4)ポスター掲示



7月の「ともに生きる社会かながわ推進週間」及び、9月の広報強化期間に、駅をはじめとした公共施設に集中して掲示しています  
(約6,000枚)

(令和5年度掲示駅数)

	7月(1週間)	9月(2週間)
横浜市営地下鉄	7駅	4駅
京浜急行電鉄	2駅	3駅
相模鉄道	3駅	3駅
JR東日本	15駅	12駅
小田急電鉄	9駅	8駅
東急電鉄	10駅	7駅
総数/1日平均乗降数	46駅/約400万人	37駅/約300万人

\*このほか、県のたより(280万部)やチラシ(3万枚)リーフレット(20万部)などでも憲章のPRを実施します

# 憲章の普及啓発

(実績)

年度	H30	R1	R2	R3	R4
目標	—	26.0%	34.0%	42.0%	50.0%
憲章の認知度	17.0%	15.7%	22.9%	26.8%	30.2%
前年度比	—	△1.3 ポイント	+7.2 ポイント	+3.9 ポイント	+3.4 ポイント
目標達成度	—	60.4%	67.4%	63.8%	60.4%

(課題)

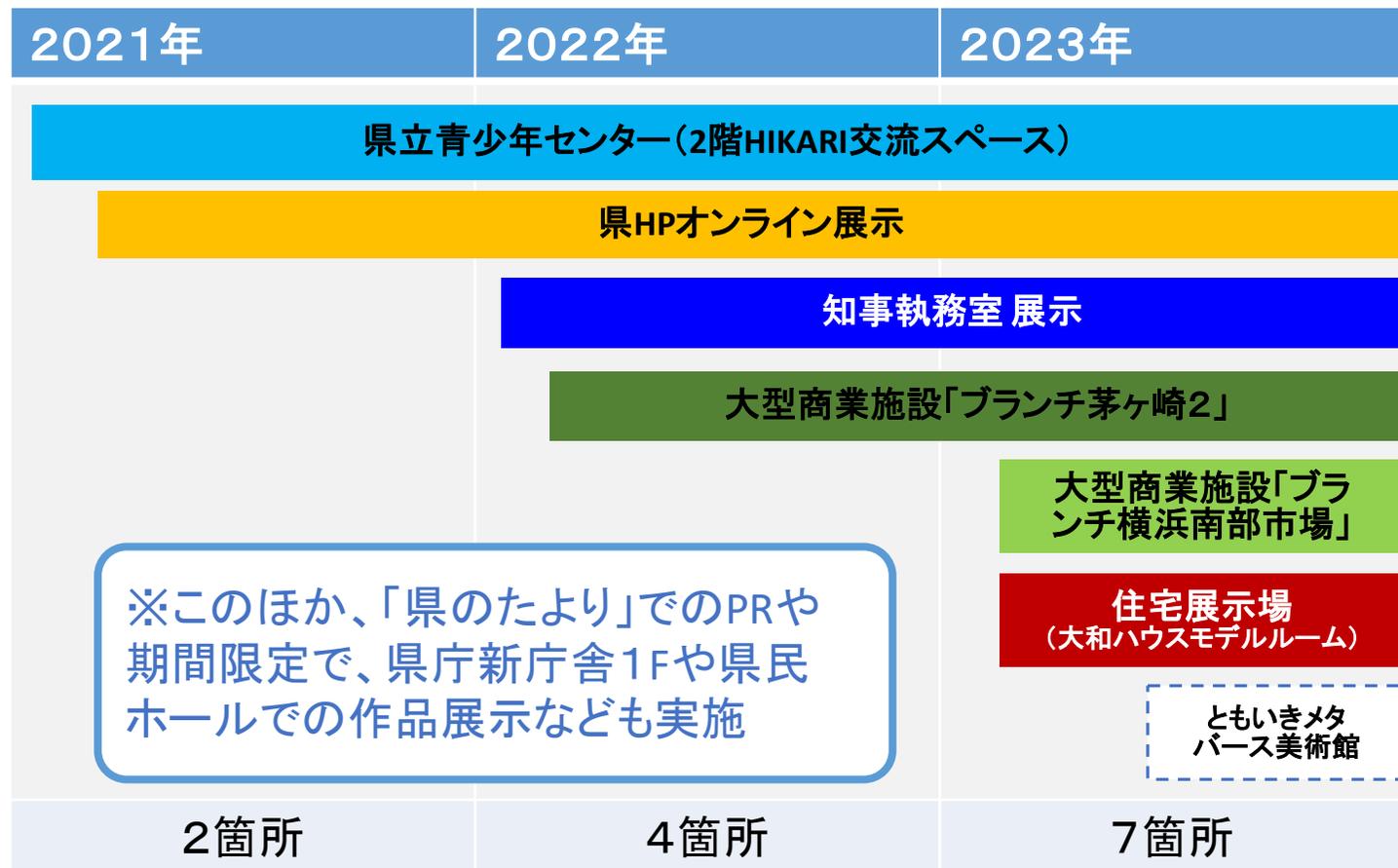
・憲章を「知っている」だけでなく、障がい者の社会参加機会が拡大するよう、障がいに対する理解をさらに深める取組が必要と考えています

# 「ともいきアート」

庁外		庁内		新ともいきメタバース 美術館
常設展示	地域展示(期間限定)	知事執務室	その他	
<p>県立青少年センター、商業施設「ブラン チ茅ヶ崎2」に、次の2箇所を追加</p> <p><b>新</b>「ブランチ横浜南部市場」 内カフェ 『kino-COCOCHI』</p> 	<p>県立の特別支援学校の児童・生徒が、アーティストとともに作り上げた作品を県内3か所で展示</p> <p>東海大学 松前記念館 (大磯)</p>  <p>ギャラリー New新九郎 (小田原)</p> 	<p>4月～ studio FLAT</p>  <p>7月～嬉嬉!!クリエイティブ</p>  <p>キキ・クリエイティブ(平塚)</p>	<p>常設展示では展示しきれない作品の鑑賞・発表機会を創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県庁 新庁舎 1F(R5.3)</li> <li>・東庁舎エレベーターホール</li> </ul>	<p>※準備中 イメージ</p> 
<p><b>新</b>住宅展示場(※大和ハウス)</p>  <p>TVKハウジング プラザ藤沢内 「大和ハウス」 モデルハウス</p>	<p>ギャラリーstudio FLAT(川崎)</p> 			

# 「ともいきアート」

## (実績) 展示場所



## (課題)

各地に展示している作品は、知名度の高いアート団体に所属している作者の代表的な作品が中心であるため、参加者の偏りが生じています

現在、県内の施設(商業・公共施設等)にアート作品を展示していますが、展示のための専用スペースではないため、規模が小さく、集客力は乏しい状況です

# 農福連携

「農福連携マッチング等支援事業」(R2～平塚市・藤沢市・秦野市でモデル事業を実施)

障がい者の農業分野での活躍を促進することで、農業者や地域の方の障がいや共生社会への理解を進め、障がい者の雇用等につなげる取組

(令和5年度事業内容)

1. 就農体験会(お試しノウフク)の実施
2. お試しノウフクを通じた農業者と障害福祉サービス事業所等とのマッチング、マッチング先への農福連携コーディネーターの派遣・調整

➡モデル地域(平塚市・藤沢市・秦野市)以外の近隣市町へも  
横展開中



藤沢市：ゆうファーム(農)×かたくりの里(福)

# 農福連携

## (実績)

	項目	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1	障がい者新規就労者数(延べ)	150人/年	309人	523人	973人
2	コーディネーター研修修了者数	30人/年	92人	96人	35人
3	就労機会の確保に繋がった マッチング件数	15件/年	15件	16件	16件
農福連携コーディネーター登録者数(令和4年度時点)					
	平塚地域	藤沢地域	秦野地域		
	19人	17人	7人		

## (課題)

- 農業側は障害者・事業者側の、福祉側は農業経営などについて、相互理解がまだ不十分です
- 障がい者だけでなく、高齢者、生活困窮者なども含めた地域の住民が集える場所として、農福連携の価値を広げていくことも検討すべきではないかと考えています

# 共生の場の創出（「鎌倉海藻パーク」×ビーチクリーン）

参加無料  
申込不要

由比ヶ浜に、みんなあつまれ！

## インクルーシブ ビーチクリーン

with 鎌倉海藻パーク

日程 令和5年6月2日(金)

時間 10:30~11:30  
集合10:00~ 雨天中止  
(中止の場合は当日8:00までにHPにて告知します)

会場 由比ヶ浜海岸  
〒248-0014 鎌倉市由比ヶ浜4丁目  
(集合 海浜公園前交差点 海側)

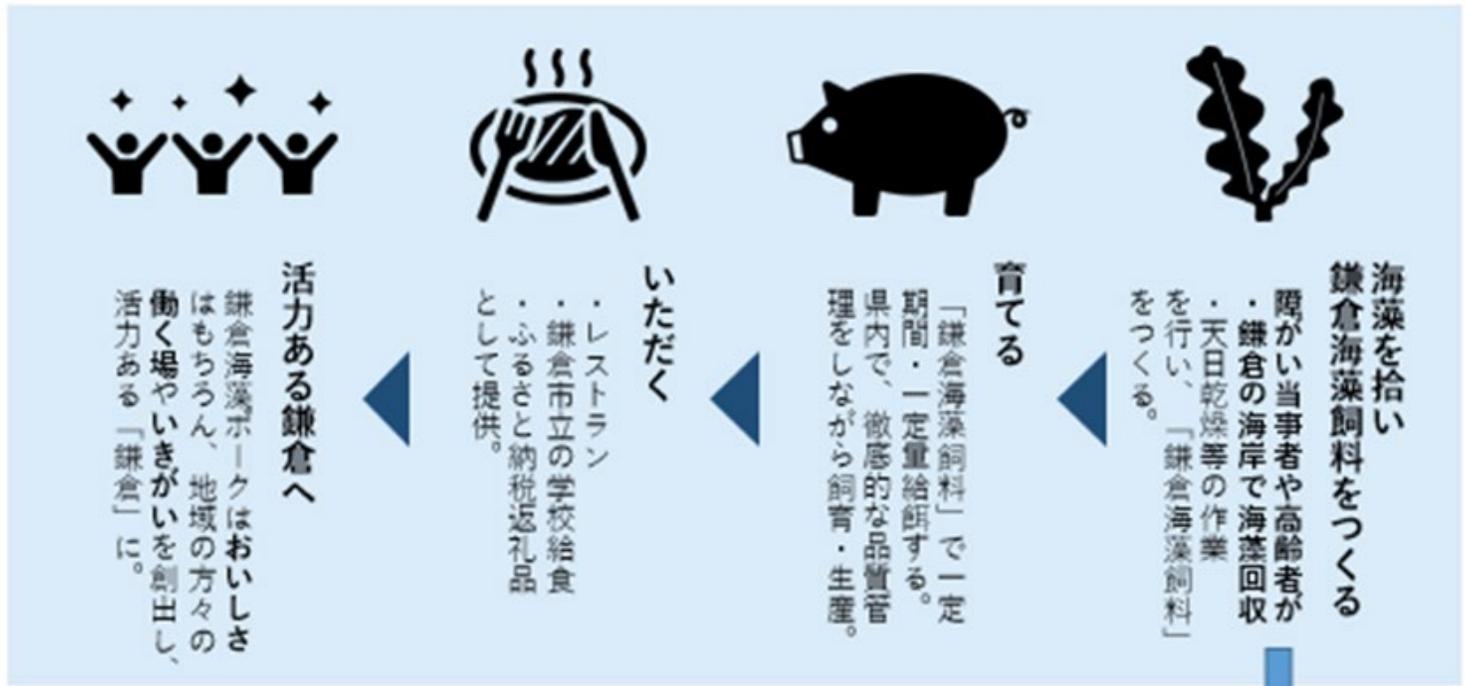
持ち物  
・清掃用具(軍手等)  
・ゴミ袋は当日お渡しします  
・濡れてもよい格好でご参加ください

問合せ 電話 045-210-4961 (神奈川県 共生推進本部室内)  
※当日は上記 または 080-3936-8960

鎌倉漁業協同組合と  
海のSDGsを実行する会

鎌倉海藻パークと鎌倉海藻飼料は  
持続可能な開発目標(SDGs)を支持しています。

雨天のため中止となりましたが、90名程度参加予定でした11月にも同様のイベントを実施します



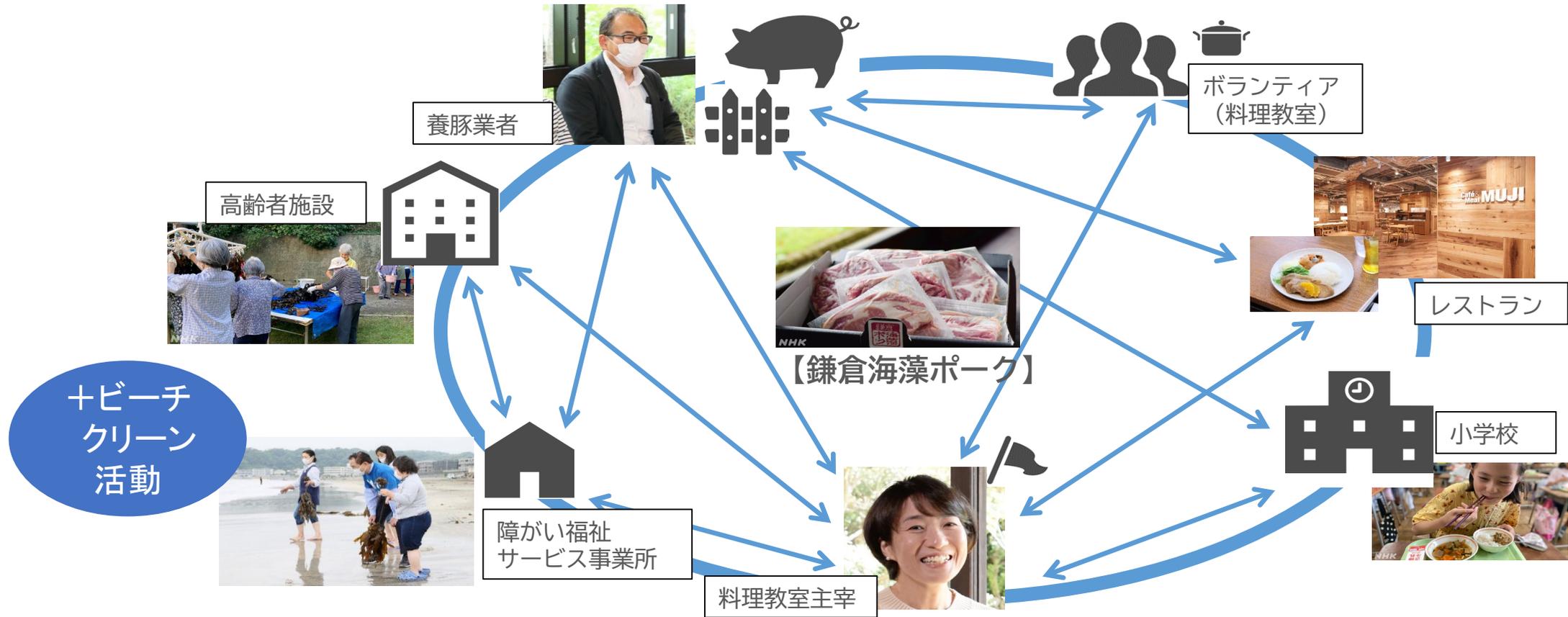
みなんで  
鎌倉の海を  
綺麗に！  
を目標に  
6月2日は  
由比ヶ浜で  
ゴミ拾いも  
一緒に行い  
ましょう

ふらっと  
来て頂いて  
構いません

皆様の参加  
をお待ちし  
ております

ともに生きる！

# 共生の場の創出（「鎌倉海藻ポーク」×ビーチクリーン）



一過性ではない障がい者を含む地域の人々つながりを生み出す活動とはどのような内容が考えられるか。また、どうすれば増やすことができるか、アドバイスを頂戴したい。